

## システム情報工学研究科修士論文概要

年 度	平成 26 年度	学 位 名	修 士 ( 工 学 )
専 攻	知能機能システム	専攻	著者氏名 廣川 琢也
指導教員氏名 宇津呂 武仁			
論文題目  楽曲制作活動の活発度・持続性に着目した楽曲制作業界の変遷の分析手法			
論文概要 <p>本研究においては、音楽業界の中でも作曲家、アーティストから構成される楽曲制作業界の変遷を分析することを目的とする。具体的には、曲年数という指標を提案し、楽曲制作活動の活発度・持続性という尺度を用いて楽曲制作業界の変遷について分析する。</p> <p>近年の音楽業界の特徴の一例として、2013年のオリコン年間CDシングルランキング50位以内についてみると、ジャニーズ事務所とAKSの2つの芸能事務所に所属するアーティストがランキングの60%を占めていた。これら2つの芸能事務所に所属するアーティストの中でも、オリコンランキング上位常連の代表的なアーティストであるAKB48と嵐を例にとると、様々な作曲家から楽曲提供をうけていることがわかった。また、これらのアーティストに対しての個々の作曲家による楽曲提供の特徴として、多くの場合、一度きりの楽曲提供であり、曲数も1曲のみであるという傾向がみられた。一方、20年前の1993年のオリコン年間CDシングルランキング50位以内についてみると、多様な芸能事務所に所属するアーティストが存在しており、ランキング内曲数の所属事務所別割合で10%を超える芸能事務所はなかった。また、作曲家によるアーティストへの楽曲提供期間は2013年よりも長く、曲数も多いという傾向がみられた。</p> <p>このように、20年前と現在とでは、オリコン年間CDシングルランキング50位以内において観測される音楽業界の状況が全く異なっている。そこで本研究では、この20年間で、楽曲制作業界をめぐる状況がどのように変化したのかを定量的に示す手法を提案する。具体的には、まず、オリコン年間CDシングルランキング50位以内を対象として曲年数という指標を導入する。この指標においては、50位以内にランクインした曲が何曲あるかによって作曲家の活発度を測定する。また、その作曲家の提供した曲が、1968年から2013年の期間において、何年間にわたって50位以内にランクインしているかを指標として作曲家の持続性を測定する。提案手法を用いた結果、最近5年程度における顕著な特徴として、ランキング50位以内の曲を提供している作曲家の平均的な曲年数が、年々低下していることがわかった。さらに、このことの主要な原因は、曲年数1の作曲家、すなわち過去20年間にランキング50位以内の楽曲を1曲しか提供していない作曲家が近年急激に増加したことであることがわかった。本分析手法によって、楽曲制作活動の活発度・持続性に着目することにより、楽曲制作業界の過去20年間における変遷が明確に分析できることを示した。</p>			
審査日 平成 27年 1月 29日			
審査員	大学名 職名	学 位	氏 名
主査	筑波大学 教授	博士(工学)	宇津呂 武仁
副査	筑波大学 教授	博士(医学), 博士(工学)	星野 聖
副査	筑波大学 准教授	博士(情報科学), 博士(デザイン学)	星野 准一
副査			